考課狀改正假條例

15

明治八年一月四日　考課状改正掛

卿

輔

丞

記録頭　出仕

別冊考課状改正掛假條例并年報書概略摸本取調候間供高覧候至急御判決相成度候也

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

114
A 2196

茲ニ歐米各國諸般政體之上ニ於テ理財之途如何ヲ熟察スルニ其施為之方法千差萬別運用之事欵條縷百端ナリト雖モ要スルニ計出為入ノ外ニ出ルヿナキハ論ヲ待サル所ナリ然リ而メ吾邦ノ如キハ制度慣習全ク歐米諸國ニ異ナル者アルヲ以テ現地ノ實況ニ就テ其方法ヲ明言スルニ至テハ量入制出ヲ以テ理財之本體トナサヽルヲ得ス而メ量制之事為ヲ明瞭ニシ財

政ノ基礎ヲ確定スルノ途タルヤ既往之成蹟ヲ以テ現今ノ計算ニ比較シ以テ將来ノ歳入歳出ヲ測量シ國家大計ノ由ル所ト國用ノ盈縮スル所トヲ了知シ以テ之レカ運用ヲ為スニアリ仍テ今大蔵省年報ヲ作為シ歳出入ノ總計國債ノ増減租税收獲ノ實況物産輸出入ノ比較等ノ如キ計算ノ細目、貿易ノ盛衰銀行ノ狀況金銀銅貨鑄造紙幣發行ノ全額等ノ如キ財務ノ要款トニ至ルマテ之レヲ纖悉具詳シ既往現今將来ノ出入比較ヲセシ其増減損益得失利害ヲ審ニ查明

斷シ以テ大計運用ノ一大要具トナサンコトヲス乃チ明治元年正月ニ起リ明治八年六月三十日ニ至ル大蔵省中現地施為之成蹟ニ就キ前條ノ款項一々之レヲ歴記シ月ニ計シ年ニ算シ其出入ノ比較ヲ明了ニシ之レヲ明治八年七月一日ニ起ル第一回決算年報書中ニ編入シ以テ將来量制之目途ヲ設立スル、權衡トナス抑戊辰維新之時ニ當テヤ兵血未乾燹燼猶燃ルヲ以テ會計ノ程式出入ノ法制其當否ノ如キハ姑ク閣キ尓後明治五六年中ノ更正ヲ以テ稍端緒ニ就クト

雖モ今日ヨリシテ之レヲ回視スレハ程式法制
悉ク允當ナリト云フ可ラス故ニ之レカ月計ヲ
作リ之レカ年算ヲナシ之レカ比較ヲナスニ至
ツテハ其難易辨セスシテ知ル可シ然レモ之レ
カ體面ニ關セス唯其實地ニ就キ其計算ヲナス
カ如キハ萬不能ノ理ナシ或ハ此ノ粗概ノ出入
ヲ歴記シ濫雜ノ比較ヲナスニ於テ我政府ノ不
體面ヲ露スニ似タリト云フモノアランモ是決
メ不然女媧補天之荒談猶支那ノ正史ニ筆シ漢
家四百年ノ事業亦三章ノ約法ニ基ヒス今國現

時ノ盛大モ之レヲ百年ノ前ニ回視スレハ英國
逋逃ノ巣窟タルニ過スキ夫レ物順序アリ時弛張
アリ戊辰維新ノ血ヲ灑スンハ安ンソ辛未更正
ノ擧アルヲ得ンニ辛未大撥更正ナクンハ敢テ
今日ノ繳法密則ヲ設ノルヲ得ン昔日之疎ハ今
日ノ密ヲ致シ今日之良法ハ昔日之概計ニ基ヒ
ス豈疑ヲ此間ニ容ル可ンヤ仍テ前歎縷述スル
所大藏省年報ヲ作為スルノ事務ニ從事セル下
シ其施為順序ヲ設クル左ノ如シ

考課状改正掛并年報取扱仮條例

第一條

大蔵省事務報告書ハ各課長ヨリ各寮頭ニ進呈シ各寮頭ヨリ卿ニ進呈シ卿ヨリ正院ニ上申スルヲ法トナスヘシ而メ其規則ヲ定メ其模本ヲ製スルハ博ク法ヲ歐米各國ニ取リ參酌折衷ヲ加フヘシ故ニ先ツ該年報原書ヲ翻譯シ模本ヲ製スルノ憑準ニ具シ且各寮課局ニ照管シテ其擔當ノ事務ヲ調査シ以テ該翻譯書ニ照合シ其體段ト其條規トヲ確定スルヲ法トナスヘシ

第二條

報告書ヲ作為スルニ當テヤ決算年ノ確定スルハ最大緊要ノ條件タリ而メ本省已ニ七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルヲ以テ決算年度ト定メリ故ニ爾後之レヲ確守シ此期ヲ愆ルヿナキヲ要ス而メ合衆國ノ如キハ各課長ヨリ九月一日ヲ以テ其報告書ヲ其寮頭ニ進呈シ各寮頭ハ十一月一日ヲ以テ卿ニ進呈シ卿ハ十二月々曜日ヲ以議院ニ呈スルヲ則トナセリ故ニ皇國ニ於テモ課長ハ九月一日ヲ以テ寮頭ニ進呈シ寮頭ハ十一月一日ヲ以テ卿ニ進呈シ卿ハ十二月十日ヲ以テ正院ニ上申スルヲ則トナスヘシ

第三條

前條既ニ論スル如ク事務報告ヲナスハ課ヨリ寮ニ呈シ寮ヨリ省ニ呈スヘキニヨリ先ツ課長ヲシテ其課擔保ノ事務ヲ報告セシムヘシ然レ圧改正ノ後ニ非サレハ此例ニ照準シ難キヲ以テ改正中模本ヲ作為スルノ間ハ當掛ノ負ヲシテ各課長ニ詢リ其事務ヲ調査セシムヘシ之レカタメ豫メ卿ヨリ此事ヲ各寮ニ達旨セシメテ要

ス當掛ノ員各課ノ事務ヲ悉ク調査シタリ中ニ
就テ各寮頭ノ報告書模本ヲ作為シ以テ各寮ヨリ
卿ニ進呈スヘキ報告書ノ軌範トナシ年報翻譯
書ト共ニ之レヲ各寮ニ送付スルヲ法トナスヘシ

第四條

當掛ノ員ヲシテ各課長ニ議シ其擔任ノ事務ヲ
調査セシムルノ際須ク精細詳悉シ苟クモ其寮
ノ事務ニ属スルモノハ至小至微ノ件ト雖モ遺
漏アラサラシメンヿヲ要ス然レモ計數等ノ事
ニ至テハ決算ノ期限ニ至ラサレハ全供スル能

ハサルニヨリ員額等ハ録載セス唯其條件而已
ヲ臚列スヘシ要スルニ惟之レヲ以テ報告書ノ
模型ニ具スルヲ主トスレハナリ

第五條

報告書模本ヲ製定スルノ際卿及ヒ寮頭各自擔
當セル事務ノ状況并将来之レヲ改良スルノ方
法等ヲ辨論陳列スルノ模型ヲ製スルニ當テ假
ニ銀行國債租税紙幣金穀貿易等ノ如キ條件ヲ
設ケ以テ論辨ヲ加フヘシ　但シ報告書中卿及ヒ寮頭ノ論辨ヲ掲載スル
ノ順序ハ下條ニ明辨ス

第六條

各寮其報告書ヲ作為スルノ順序左ノ如シ

第一次

頭ヨリ大蔵卿ニ稟白スルノ文ヲ具ス

第二次

其寮収入支出ノ総額計表ノ種類番號等ヲ歴記ス

其寮収入支出ノ金額ニ就キ節目ヲ略載シテ累年ノ比較及ヒ本年中毎一季毎一月等ノ計數ヲ抵列ス

第三次

其寮擔保セル事務ノ情實ト之レヲ調理シ之レヲ改善スルノ方法等ヲ具陳ス之レヲナスノ際既往現今将来ノ三項ニ分チ既往數年ノ間ハ何等ノ處分ヲ以テ按排整頓シ現今ハ何等ノ方法ヲ以テ釐革矯正シ将来ハ何等ノ策略ヲ以テ改良大成スヘキ等ノ事ヲ論辨シ務メテ其區域ト比較トヲ明晰ニシ苟クモ其寮ノ法規ニ關スルモノハ利害得失ヲ歴論シ毫モ漏スコトナシ次ニ寮中

分課ノ方法官吏ノ員數位次增減及ヒ其職
ヲ奉スルノ景況ヲ概言ス

第四次

第二次ニ於テ既ニ概言約論スルモノヽ細
目ヲ此ニ詳悉シ以テ計表ノ體裁トナシ至
小至微ノ件ト雖モ遺脱セシメス而メ既往
現今出入ノ計理ヲ歴記シ將来ノ豫算ヲ具
列シ以テ毎一年ノ比較ヲナシ尚又毎半年
毎一季毎一月ニ分チ依テ累年ノ比較ヲ明
詳ニシ以テ事務沿革ノ成跡ヲシテ秩然

タラシム
府縣廳ニ據リ其報告書ヲ作為シ正副二本ヲ
製シ以テ卿ニ進呈ス卿乃其一ヲ左右ニ留メ其
一ヲ以テ當掛リニ付シテ本省年報書ヲ作為ス
ルノ資料ト為サシムヘシ
但シ右ハ惟其大綱ヲ掲クルノミ故ニ之ヲシ
テ一目瞭然タラシメンカ為メ今假リニ租税
ノ一寮ニ就キ其出入計算ヲ舉ケ以テ別冊ト
ナシ其概畧ノ例案ヲ副具ス其詳規豫附ノ如
キハ模本製定ノ日ヲ待チ明辨スヘシ

第七條

本省ノ報告書ヲ作為スルノ順序左ノ如シ

第一次

卿ヨリ　正院ニ上申スルノ文ヲ[illegible]首

第二次

本年ノ歳出入ヲ通計シ将来ノ豫算ヲ具列ス

第三次

省中事務ノ景状ト之ヲ辨理シ之ヲ改良シ以テ便益ヲ生スルノ策略等ノ議論ヲ陳述ス其序次左ノ如シ

本年收入支出ノ比較ヲナシ其間差等ア生スルアラハ改良シ以テ其宜ヲ得セシムルノ方法ヲ議論ス

公債ノ概計及ヒ歳中償還セル全額ヲ掲ケ以テ将来之ヲ消却スルノ方法ト利子ノ裕ヲ減少スルノ方略等ヲ陳述ス

租税收獲ノ實況其法則宜キヲ得ルヤ否之ヲ賦スル公平ナルヤ否改正ヲ要スル條件ノ有無等卿ノ意見ヲ明辨

記録寮

歳出入ニ關渉スルノ禍災ヲ縷示ス
貿易ノ狀況ト輸出輸入ノ比較ヲ掲載シ
貿易ヲ盛昌スルノ方ト國産ヲ増益スルノ法トヲ辨論ス
銀行ノ情狀ト之ヲ調理スルノ方法トヲ陳述ス
省内諸般法令ノ良否官吏ノ員數ト該員事務ヲ擔保スルノ情實等苟クモ本省ニ關渉スル所ノ條件ヲ掲ケテ漏スル所ナキヲ要ス

第四次

計表ノ體裁ヲ以テ既往數年間出入計算ノ節目ヲ詳細歷記シ本年ノ歳出如何歳入如何ヲ具列シ後數年間ノ概計豫算ヲ審査詳掲シ且該年間ノ毎半年毎一季毎一月ノ出入計理ヲ細録シ以テ計算ノ比較ヲ明瞭ニシ國家大計ノ運為ニ便ナラシム

第五次

前次概算論述セルモノヽ節目ヲ示サンカ為メ各寮課局ヨリ進呈スル所ノ報告書ヲ

取リ要ヲ摘ミ煩ヲ省キ以テ此ニ掲載スル
ヲ則トス然レ𪜈該書中事務ノ景状ヲ概言
シ将来改良ヲ要スルノ件ト之ヲ釐革スル
ノ方法ヲ陳述スルモノハ片言隻語モ添削
塗抹セサルヲ法トス而シテ各寮課局ノ報告
書ヲ掲載スル序次左ノ如シ

理財課
文書課
用度課
蕃地事務掛
條約改正掛
度量衡改正掛
検査寮改正掛
造幣寮
租税寮
紙幣寮
出納寮
統計寮
検査寮
國債寮

記録寮

其他之ニ準ス

但シ頭初ニ本省附属ノ課局ヲ掲ケ次ニ臨時掛リヲ置キ然ル後順序ヲ追ヒ各寮ヲ掲載スルヲ定則トナスヘシ

右報告書ヲ編成シ了ノ之ヲ正院ニ上申シ其許可ヲ得テ之ヲ刊刷シ然ル後勅任以上及ヒ本省大少丞ト各寮頭トニ頒付スヘシ夫ノ書肆ニ下シテ之ヲ販賣スルカ如キハ時ノ便宜ニ従フヘシ

以上掲録スル所ハ其肯綮ヲ條悉スルニ足ラサルヲ以テ別ニ草本ヲ案定シ姑ラク該書ノ大體ヲ表スルノ具トナサントス若夫軌範詳確ハ則チ模本製定ノ日ヲ期ス

第八條

報告書中既往現今将来ノ歳入出及ヒ國債貿易租税等ヲ比較スルノ事ハ最重緊要ノ件タリ故ニ預メ明治元年正月ヨリ明治八年六月三十日ニ至ル歳出入ノ計算ヲ精査シ以テ毎一年毎半年毎一季毎一月ニ決算シ而メ之ヲ将来卿ノ報告書中ニ掲載シ其沿革ヲ明瞭ニシ以テ将来ノ

豫算概計ヲ立ツルノ具ニ供センヿヲ要ス

第九條

右ニ論スル所将来ノ豫算ヲ立ツルノ事ハ卿ノ報告書中ニ限ルヘシ

第十條

前條陳述スル所事務ノ擔當ヲ分テ第一第二ノ兩部トナシ以テ各自擔任ノ事務ヲ調理セシムヘシ其分課左ノ如シ

第一部

報告原書其他考課状改正事務ニ緊要ナル横文ヲ翻譯シ以テ參考ニ供スルヲ其職トス

第二部

全國ノ正租雜税等総歳入ノ種類及ヒ内國費用外國交際費用内外國債償却等総歳出ノ條件各種紙幣金銀銅貨鑄造其他檢查統計等各寮主任ノ事務ヲ類別シ其關係ノ軽重有無ヲ酌量シテ豫シメ其科目ヲ設立シ某類ハ某寮ニ屬シ某事件ハ某寮ヨリ報告スヘキ等ヲ精細ニ調查シ以テ報告書模本

記録寮

ヲ製スルノ資具トナシ而シテ報告書譯文ニ照準シ以テ現今本省及ヒ各寮局課施行スル所ノ事務ニ照會シ逐次取捨折衷ヲ加ヘ報告文ノ體裁ヲ議定シ諸計表ノ模本ヲ整備スルヲ其責任トス

第十一條

各寮局課其報告書ヲ作為スルノ際先ツ其草按ヲ當掛リニ送付シ定則ニ適フヤ否ヲ照會スヘシ當掛リ之ヲ受テ精細調査シ若シ法ノ如クナラサル者アラハ則チ校正シ以テ其主任ニ還付ス主任之レニ從テ改正シ然ル後正副二本ヲ卿ニ進呈スヘシ

第十二條

卿ノ報告書ヲ作為スルノ際事務ノ景況ト卿ノ意見ヲ陳述スルニ當リ之レニ掲載論述セント欲スルノ件々ハ豫メ卿ニ請ヒ其筆記或ハ口授ヲ受ケ之レニ依テ草按ヲ起シ以テ之レヲ卿ニ呈シテ閲覽ニ請ヒ其可否スル所ニ從ヒ之レヲ改正スヘシ

第十三條

卿ノ報告書中ニハ細目ヲ指示スルノ計表ヲ省略ス故ニ各寮進呈スル所ノ報告書ニ就キ折衷取捨ヲ加ヘ歳出入ノ多寡國債ノ增減貿易ノ盛衰租税ノ實況等其詳細ヲ示スノ具トナスヘシ悉ク之レヲ掲載セシ後チ再ヒ卿ノ査閲ヲ請ヒ以テ正院ニ上申スヘシ

前條具論セル決算年度及ヒ報告書上申并ニ概計預算等ノ期限ヲシテ明晰ナラシメンカ為メ茲ニ左表ヲ掲ク

収納期限之表

八年	七月	八月	九月
八年	十月	十一月	十二月
九年	一月	二月	三月
九年	四月	五月	六月

九年	七月	八月	×九月
九年	十月	十一月	●十二月
十年	一月	二月	三月
十年	四月	五月	六月

十年	七月	八月	九月
十年	十月	十一月	十二月
十一年	一月	二月	三月
十一年	四月	五月	六月

×此一季ヲ前決算年収納期トス

●此ノ上申ヲナス時概算假算ヲ付スル左ノ圖ノ如シ

概計豫算期限之表

八年	七月	八月	九月
八年	十月	十一月	十二月
九年	一月	二月	三月
九年	四月	五月	六月
九年	七月	八月	*九月

九年	十月	十一月	△十二月
十年	一月	二月	三月
十年	四月	五月	六月

十年	七月	八月	九月
十年	十月	十一月	十二月
十一年	一月	二月	三月
十一年	四月	五月	六月

*之レハ第二決算年初一季ノ概算

△以下残リ三季ノ假算及ヒ将来第三決算年歳入歳出見込計算

附言

前欵既ニ論スルカ如ク年報書編成ノ擧タル皇國ニ於テハ目下叔メテ着手施為スル所ナルニヨリ或ハ法ヲ外國ニ据採シ或ハ例ヲ英佛ニ撰摘シ以テ皇國目今ノ制度ニ照襯酌量シ然ル後其体裁規則ヲ創定セサルヲ得ス故ニ今假リニ條例ヲ設ケ着手ノ門戸トナサント欲スト雖モ尚實際經驗増補改正ヲ要スル者アラン但シ之レヲ増補改正スルニ至テハ更ニ高判ヲ仰クヘシ請フ速ニ之レニ裁セヨ